

第36期医学科卒業式典 「医官としての志を胸に旅立ち」

3月7日(土)、医学科第36期学生卒業式典を体育館兼講堂で行った。式典は、小雨の降る中、防衛大臣をはじめ、国会議員、その他多数のご来賓、ご家族及び教職員等約600名が参列し、盛大に執り行われた。

卒業生は、6年間の医学教育及び訓練を終え、医師国家試験を受験し卒業式を迎えた。卒業証書授与、学位記授与の後、79名全員で「医師の誓い」を読み上げ、医師としての決意を述べた。

中谷防衛大臣は、「今後は自衛隊医官として、先輩たちの崇高な志を受け継ぎ、我が国の平和と安全、国民の命と幸せな暮らしを守りぬくため、人徳を涵養し、医学に関する研鑽を積み重ね、たゆまぬ努力を続けるとともに、積極的平和主義の理念をもって、果敢にチャレンジし、衛生機能強化に尽力してもらいたい。『よき自衛官である前に、よき市民、よきジェントルマンであれ！』」と訓示した。

また、三浦学校長は式辞で、「日本の国民が期待を寄せ、心の拠り所とする職業につくのであるという自覚を一生忘れないこと」、「医師や自衛官として本当に必要な勉強はこれから始まること」、「防衛医科大学校の卒業生であることに誇りを持ち、共に研鑽を積んだ仲間を大切にすること」を要望した。

任命式では、陸・海・空幕僚長から曹長を任命され、防衛大臣に宣誓を行い、医官としての志を胸に旅立った。



医師の誓いを読み上げる卒業生



三浦学校長による式辞



中谷大臣による訓示



岩田陸上幕僚長からの任命



中谷大臣に宣誓書を渡す卒業生



帽子投げをして退場する卒業生

第38期高等看護学院卒業式典 「患者に寄り添える看護師を目指し」

3月10日(火)、高等看護学院第38期学生卒業式典を体育館兼講堂で行った。式典は、梅の花が咲くさわやかな天気の中、大臣官房衛生監をはじめ、多数のご来賓、ご家族及び教職員等約300名が参列し、盛大に執り行われた。

卒業生48名は、3年間の看護教育を終え、看護師国家試験を受験し卒業式を迎えた。

四ノ宮高等看護学院長は、「本学院において得た、看護の知識・技能・態度や様々な人々との出会い・経験を、「看護の原点」として大切にしたい。患者さんの事を真剣に考え、寄り添い、話に耳を傾け、心を癒せるような、真に頼りがいのある看護師になることを要望する。」と式辞を述べた。

その後、三浦学校長は、「今日の日抱いた前向きな気持ちを忘れずに最新の医療知識や看護技術の修得に努め、看護能力の向上に励んで欲しい。」と訓示した。

卒業生は、3年間を振り返り「自分の未熟さに苛立ちや無力感を感じたり、人の生命に関わる責任の重さに耐えかねて、看護の道をあきらめかけたこともあったが、患者さんから『ありがとう。がんばって素敵な白衣の天使になって欲しい。』と激励を頂き、自分の選んだ看護の道は間違っていなかったと再認識することができた。」と述べ、感謝の気持ちを忘れず、立派な看護師になることを誓い卒業式を終えた。